

龍谷頭真会会報

編集・発行 龍谷頭真会事務局

京都市下京区堀川通花屋町下ル 本願寺派情報部内

記念講演	「宗教と政治」	杉山 令肇参議院議員	2 ~ 8
	「天下一品」	楯 大亮・北海道・南富良野町長	9 ~ 12
体験発表	「過疎への試み」	野上 義浄・福岡県・小石原村長	12 ~ 14



はじめに

僧侶の立場から国政にかかわる杉山令肇参議院議員が、私学教育にたずさわることになった動機をはじめ、情熱を燃やす教育改革への取り組み、教育のあり方、マスコミへの注文、戦後未処理問題、北朝鮮在住の日本人女性の実情、さらに靖国神社問題など、具体的な事例を上げながら自らの政治活動の目標と理念を披れきする。

参議院議員 杉山令肇

宗教と政治

去る五月二十五日に開催された昭和五十九年度の「龍谷頭真会」総会では、本会の発足以来の研究課題である「宗教と政治」をテーマに、本会の元会員で今回、顧問に推戴した杉山令肇参議院議員を招いて記念講演を頂いた。杉山議員は四十年近く、私学教育の振興にたずさわってこられた豊富な体験をもとに、教育行政の改革に取り組んでおられるほか、宗門と国政のパイプ役としても尽力されている。会員の強い要望もあって、記念講演の要旨と、楯大亮、野上義浄会員が行った体験発表の要旨をお届けする。これら三つの稿は、会員諸氏が今後の伝道・政治活動のあり方を考えていく上に、大きな指標となることであろう。

講師紹介

杉山 令肇（すぎやま・れいじょう）氏。
大正十一年生れ。龍谷大学文学部卒。岐阜教区華陽組順勝寺住職。宗会議員二期。参議院議員。予算委員会委員。国民生活経済委員。自民党全国組織委員会文教局次長。党国民運動本部副本部長。聖徳学園理事長。

■保育園から大学まで 18の学校を

「宗教と政治」という大きなテーマをかがげましたが、念仏者として政治にたずさわっている私の人生体験、所感を話することでテーマにかえさせて頂きます。まず最初に、私がなぜ岐阜県地方区選出の参議院議員として国政に参画するようになったのかについて、その経過、背景などからお話させていただきます。

率直に申して、私の寺は小坊です。このため先代の父親も現在は岐阜市の一部ですが、村役場の収入役として奉職し、そのかわり法務を行っていました。龍大在学中に父親が亡くなり、卒業後、すぐに住職に就任したわけですが、当時、本堂をはじめ庫裏などすべての建物の老朽化が著しく、これらをいかにして再建するかが大きな課題となっていました。また、これからの時代、どう生きていくことが宗門人としての責務を果たしうるだろうか、小坊なりになしうべきことではないだろうか、色々考えてみたわけです。

今から四十年前も前のことから、終戦後の混乱期で、社会も思想も乱れに乱れていました。それだけに私は、念仏者として精神文化を高めるため社会活動に参画していこうとの結論に至ったのであります。だが、考えて

みますと、これは大変なことでした。社会活動を始めのお金も土地もありません。ところが、私の考えにご門徒の人たちをはじめ、たくさんの人たちが賛同して下さり、ともかく保育事業から着手したのです。

保育所です。共かせぎなどの家庭で市町村長が必要と認めたゼロ歳児から就学前までの児童をお預かりするようになったわけですが、そのうち地域の人たちから幼児教育の施設である幼稚園の開設を希望する声がたくさん寄せられるようになりました。私としても終戦後の混乱期だけに、幼児からの宗教教育の大切さを痛感しておりましたから、すぐに準備にとりかかり幼稚園の開設にこぎつけ、さらに、岐阜市の近郊に次々と幼稚園を開設して、現在までに十カ園、保育所一カ園を運営するようになった次第です。

また、その間、岐阜教育大学を頂点に、短期大学、高等学校二校、中・小学校、自動車学校などを次々に新設、これに幼稚園などを合わせ十八の学校のそれぞれの理事長として仏教の精神をもとにした教育にたずさわっています。

このように教育事業を通じて、社会活動を推進してきたわけですが、一般の方々から強力な要請がありまして、はからずも岐阜県会議員に立候補することになりました。お念仏のみ教えを県政に反映させていくことも、念

仏者として社会活動に参画していく一環になるものと思い、立候補に踏み切ったのです。私が立候補した岐阜市選挙区の候補者は十四・五人でしたが、おかげさまで四位当選をさせて頂き、二回目の選挙が二位、三回目ですッ。当選させてもらいました。

県政にたずさわった中では、色々な仕事をさせてもらいましたが、やはり住職ですから何よりもまず精神文化の向上にかかわっていくことを信条にしました。このため、県議会では知事さんに「県営住宅の建設に際しては、お仏壇を安置できる場所を設けてほしい」と要望し、実現してもらいました。ささいなことですが、このようなことから手がけていったわけです。そのうち参議院の岐阜地方区選出で、当時、大蔵政務次官を勤めておられた浅野先生が三年前、急逝されました。自由民主党ではさっそく後任の立候補者を立てることになり、大栗田の岐阜市からトップ当選で選出されていた私に立候補の要請があったのです。

要請は受けたものの、当時、教育事業などたくさんの方のやりかけの仕事をかかえていたもので東京に駒を進めることは無理だと判断して、最初はお断りしたのですが、再三の強い要請があり、周囲の人たちからもうながされ立候補させて頂いたわけです。結果は大多数の票を集約させてもらい当選することが

できました。また、昨年の二回目の選挙も投票率五十%という低いものでしたが、当選した私が四十二万票、二位の社会党候補者が十七万票、民社党が九万票、共産党が五万票という数字でした。

■教育現場 荒廃の原因どこに

こうして、みなさま方のおかげで国政に参画させて頂いているわけですが、東京にあってわが宗門をながめて感じますことは、結集の力が足りないということです。宗門は一万の寺院を擁しているだけに、ちょっと残念な気がします。ともかく宗門は国政にかかわる問題をかかえております。ご承知のように、ご本山には文化財をたくさん所有しており、その保護修復については多額の国庫補助金を要します。このため大蔵省との折衝が不可欠となります。また、本山は隣接地の問題もかかえています。これらのことを推進していくには、宗門と国政との間のパイプ役が必要です。

もち論、東京には門信徒の国会議員の方々が組織されている築地開真会があって、立派な諸先生がたくさんいらっしゃいます。そしてそれぞれ宗門の発展のために貢献して下さいているのですが、やはり門信徒という立場もあって宗門の中味をそのまま説明しかねる

点もあります。それだけに内輪の誰かがどこかで努力しなければならぬという状況下にあります。そのお役を微力ではありますが、豊原総長のご意向をくんで、色々とお手伝いをさせて頂いている次第です。

さて次に、私なりに国政の問題点についてじゃっかんふれていきたいと思えます。まず教育改革の問題ですが、これらをめぐっては現在、与党と野党の一部がするどく対立して

います。なかでも日教組を背景とした社共両党が反対の立場をとっています。中曽根首相の考えております臨時教育審議会設置法案が国会に上程されようとしています。

また、教員の免許制度の改正問題も与野党対決となっていますが、いずれにしても教育改革は国の当面する大きな課題であると思えます。とくに現在行われている六・三・三制の義務教育のあり方にはさまざまな意見があります。人間の発達段階の過程として、現在の就学年齢が現在のままでよいのか、一年繰り下げるべきではないか、六・三・三制を五・四とか色々変化をもたすべきだといった意見があります。

とくに今、世論の高まっているのが、道徳教育の重視などです。さらにもっと教育内容を推進する必要があるのではないかと、また、教育条件を整備してマンモス学校を解消するため四十人学級を促進すべきだという声もあります。こうした教育条件の改善にはお金がかかりますので、すべてが実現可能というわけにはいきませんが、いちおう議論すべき問題点として国政の場で論じていかなければなりません。こうした問題に対して総理は、幅広く各界各層の人たちの意見を聞くために、まず委員会を七月には設置したいようです。が、ご承知のように現在、国会が空転しており、今後どういう経過をたどっていくかが注



目されるところです。いずれにしても、今後の政局は行財政改革と並行して教育改革が三本柱となりそうです。国民にとってもこれらの問題にどう対応していくかは大きな課題といってもよいでしょう。

私もこれまでずっと教育にたずさわってきまして、教育問題にとりわけ深い関心をもっておりますが、なかでも全国の中学校で続発している校内暴力事件には、心を痛めています。警察庁が昨年発表した統計によると、全国にある一万七百五十八の中学校のうち二千三十五校で校内暴力事件が起こっています。しかも、このような事件は年々上昇の経過をたどっているのですから、まさに恐るべき事態であると言わざるをえません。

さて、こうした事態になった原因はどこにあるのでしょうか。色々原因が考えられますが、家庭にも原因があります。近年、生活が豊かになるとともに過保護になり、はては親子断絶といった例もごく日常なものとなっています。また、社会教育の面でも大いに反省しなくてはならないことがたくさんあります。だが、私は何よりも教育の第一柱となっているのは学校であると思います。その学校で暴力がまかり通る事態に至った大きな原因としては、日教組の行動を上げざるをえません。これを論ぜずして教育の改善は望めないとさえ確信しております。

■ブレーキなき 路線歩む日教組

それでは日教組はどういうことを考え、どのような動きがあるのか、また、どのような点を反省してもらいたいかについて、じやっかん申し上げます。最初に日教組の運動方針です。近年では実状をかくすのが上手になっていますが、運動方針には「自分たちは労働者であって、真の労働者の幸せのためには社会主義国家をつくることにある」といった主旨のことを述べています。

はたして、これだけ平和と自由のある日本の国を社会主義国家に変える必要があるでしょうか。そうならなければ「自分たちの幸せがない」との考え方には、どうしても納得ができません。日本の国民の大多数は決してそのようなことは考えていないと思います。つぎに教育現場での問題であります。私は先般も参議院の予算委員会でも文部大臣に日教組の違法ストライキ問題について質問を致しました。昨年一年間で違法ストに参加した教員の人数を問いましたところ文部大臣の答えは「みなさん、残念ながら二十五万人です」とのことでした。そして、「処罰を受けた教員は五万人強」という答弁でした。

日教組の問題で気がかりなのは、教員の中に国旗や国歌の「君が代」を学校で使わせないとする人たちが少なくないということです。

国旗や「君が代」は、かつての軍国主義に逆行するもので、そうしたものは使ってはいけないというのがその理由です。しかし、世界中のどの国をながめても、自分の国の国旗や国歌をないがしろにする国民はありません。それだけに、日教組の教員たちのこうした姿勢は実に残念なことです。

私がかつて岐阜県議会の文教警察委員長のおり、大垣北高校の卒業式で「君が代」の斉唱をとりやめた学校側に反発して、一人の卒業生が式の最中に突然立ち上がって、「君が代」を歌い出し、式が混乱するという事件がありました。この事件は岐阜県教育界に大きな波紋をまき起こしたのですが、私は委員長として学校長を呼び、委員会の中で「文部省の指導要領には八学校における大事な式典などには、日の丸を掲げ、国歌を歌うことが望ましい」としてのめられているのに、あなたの学校ではなぜやらないのですか」と質問しました。すると学校長は「ぜひやりたいと思いますが、式典で八君が代Vを歌わせると混乱しますのでやむなくはしました」というのです。職員会議で数人の日教組の教員が反対するためらしく、そればかりか純心な子供たちに対してよくない裏工作までするのでとりやめたというのが真相のようでした。このようなことが全国各地で行われている

のが実情なのです。それだけでなく選挙になりますと、先生方は選挙運動をすることが禁止されているにもかかわらず、共産党などの候補者の応援にかけずりまわる教員も少なくないようであります。このほかにも、教員の中には「中曽根政権、自民党は悪者だ。軍拡路線にはしっている。近く君たちを軍人として引っぱらうと悪だくみをしているにちがいない。早く自民党をつぶさなくてはならない」といったことを授業中にしている人もいます。こうしたことに対する苦情が私どものもとにたくさん寄せられています。

■GNP・八%の 防衛費なのに

中曽根首相は軍拡路線をはしっていると批判する声に対し私はつぎのように思うのであります。今日、わが国は世界第二の経済大国として発展しています。ご承知のように日本は資源の少ない国です。だから貿易を中心として経済が成り立っています。日本の船舶が安全に世界の海を運航できるのも、世界の国と信頼・協調・理解の関係が保たれているからです。

こうした背景があればこそ、日本は経済大国になることができたのですから「せめて自分の国の庭先くらいは自分で守りなさい」というのが世界の自由主義国家の考え方です。

なのに教育現場の一部の人たちが「防衛費が多すぎる」「徴兵制を準備している」といった片寄った考えを生徒にふきこんでいることに對しては、がまんならないものを感じるのです。

では、参考にGNP（国民総生産）でいうと、日本の防衛費は一%を超えるか越えないくらいの程度です。ちなみにアメリカは六・六%、西ドイツ三・四%、フランス四・一%、韓国六・二%、ソ連や北朝鮮は十%台になります。このように諸外国のすべての国が自国民の生命・財産は自分で守るという認識に立ち、努力しているわけです。ところで私は永世中立宣言で有名なスイスを訪れ、国防のあり方をつぶさに視察したことがあります。まず国民総生産に占める防衛費は一・八%で、国境には軍人が鉄砲を持って任務に当たっていました。このことから、日本の国民の防衛費負担が世界で最も低いということをご理解頂きたいのであります。

再び日教組に関してです。これはどこの県のことであるかはさしひかえますが、教員の一部に無償配布の教科書を使わず、自分たちで教科書を作成して、片寄った思想を教えこんでいる例もあるのです。さらに、ひどい例になりますと、国歌にかえて北朝鮮の歌を生徒たちに教えている教員もいて大変残念なことです。

■道徳教育の 充実にはばむものは

第二は「道徳教育の充実」ですが、現在、義務教育では、週一時間、「道徳」の時間が設けられています。ところが、日教組の強い学校などでは「一般の教科でそれに代わることをしているから」と、道徳教育をカットしているところもあります。こうした実態に対して「文部省はもっと強い姿勢で対処すべきだ」との世論も強く、文部省も改善に向けて努力していますが、現場の教員に道徳教育への

さて、国民の教育世論の問題にふれてみたいと思います。全国の新聞がときおり意識調査を行っておりますが、私どもがつかんでいるデータでは、第一は「教師の資質向上」第二は「道徳教育の充実」第三は「入試制度の改善」です。とくに教員の資質の向上が何よりも大切だと思えます。端的に言えば、子供たちから見て、私たちの先生、私たちの学校は信頼できるか否かというのが大きな問題なのです。子供たちは利発でしかも正直です。先生方の言動は正確に把握しています。だから先生が生徒に自習をやらせて、違法なストに参加し、戻ってくると「君たちはまじめにやれ」と言ったところで納得するものではありません。ともかく教員は、愛情をもって教育に専念してほしいのです。

意欲がないのですから困ったことです。

それでは、文部省は道徳教育の指導に関してどのように指示しているかについて、参考までに申し上げます。道徳教育の指導要領は小学校で二十八カ条、中学校で十六カ条の内容がもり込んであります。これらの内容は決してむつかしいものではなく、教員が実直に愛情をもって教育に専念すれば、達成しうるものばかりです。小学校の指導内容の一部を紹介してみますと、日常生活にかかわる礼儀作法を正しくし、きまりのある生活をするというようなことから、

○社会の一員としての自覚をもって、公共物を大切にし、公德を守る。

○家族の人々を敬愛し、よい家庭を作ろうとする。

○学校の人々を敬愛し、立派な校風を作ろうとする。

○日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に尽くそうとする。

○広く世界の人々に対して正しい理解と愛情をもち、人類の幸福に役立つ人間になろうとする。

このような指導内容をもとに、道徳教育が行われているのですが、先に述べましたような背景のため成果が上がっておりません。この他にも現在の教育現場には解決の迫られている問題がたくさんあるのです。

■偏向著しい 日本のマスコミ

さて、話はそれますが、私はみなさま方に知っておいていただきたいことがあります。それは今日の日本のマスコミ偏向についてです。非常に片寄っています。一例をあげますと、社会主義国家の実情についてはあまり報道しません。一方、自由主義国家に関しては一つのことを三倍か五倍くらい大げさに、しかも批判たっぷりに報道します。こういうことではよくありません。真実は真実として、ありのまま報道すべきだと思います。そうした面からも、戦後、放置されたままになっている「戦後の未処理問題」について二・三の報告をさせて頂き、ご理解を頂きたいと思っています。

未処理問題の一つは、軍人恩給に関するものです。恩給の受給資格が、在勤年数がじやっかん足らないために、受給されない人たちが少なくありません。こうした人たちが「暖かい配慮をしてほしい」と運動されています。あるいは、韓国人や中華民国の元日本軍人だった人たちが、日本政府に対してなんらかの保障をしてほしいといった運動もあります。さらに、戦時中、日本政府は白紙、赤紙の制度を使って、朝鮮半島の青年四万三千人を徴用してサハリン・樺太の地に送りこみました。

終戦後、サハリンはソ連の支配下に置かれたわけですが、ソ連は今日に至るまでそれらの若者、今は老人ですが、彼らの祖国への帰還を許そうとはしません。私は日韓議員連盟に属していますので、東京やソウルでの会議に出るのですが、そのおり韓国の議員さんたちが涙を流さんばかりに「何とかしてほしい」と訴えられます。

この問題は全く人道的なものですから、私たち議員としても何とかしなくてはならないと切実に思っているわけです。ところが、日韓議員連盟の会議には、新聞記者もたくさん取材に来ており、そうしたやりとりも知っているのですが、いっこうにこのニュースを大きく書いてくれません。私としては、このような問題は国民の世論に訴え、いまだに解決されていない人道的な戦後未処理問題の一つとして、全国民が解決に向けて立ち上がってほしいと切実に願っています。

■北朝鮮在住の 日本人女性は今……

また、もう一つ、ぜひお話ししておかなくてはならない問題があります。それは北朝鮮にわたった六千人の日本人女性のことです。北朝鮮は朝鮮動乱がおわり、国づくりに取り組む段階になって、日本に住む在日朝鮮人の人たちに「祖国の建設のため」と帰国を呼びか

けました。この呼びかけに応じて十万人余りの人たちが純真な気持で国づくりに参加しようと呼びかけました。その際、在日朝鮮人の男性と結婚または交際していた日本人女性も六千人余りがかの国に渡ったのです。北朝鮮の政府はこれらの人たちに「あなた方は安心してわが国に来て下さい。わが国は豊かで夢のような良い国です。こちらに来られて一・二年すれば里帰りもさせます。日本との交流も認めましょう」と呼びかけました。

この呼びかけを信じた日本人女性は、肉親の反対を押し切って夫と共に北朝鮮に渡ったのです。ところが、現在に至るまで六千人の日本人女性の音信は不通であります。里帰りももちろんさせてくれません。赤十字を通してなんだかの音信をとろうとするのですが、うまくいきません。しかし、どのような経路かはわかりませんが、六千人のうちの誰かの手紙がまわりまわって肉親のところに着いたケースもあって、その手紙を持って肉親の方が国会に陳情に来られます。

その手紙の内容は涙なくしては読めません。『今、私たちは夜の十二時です。夜の十二時まで働かなければならないのです。また着物も食べ物ありません。どうかお母さん、この手紙が届いたら衣類の一つでも何としてでも送っていただきたい。そして私たちは祖国日本へ帰りたいのです。でも、帰りたいくても

帰してくれません。鳥にでもなったら帰してやろうとおっしゃるなれば、私は鳥になっても祖国日本のお母さんのもとへ帰りたいのです』と切々と書かれています。

日本人女性に対する非人道的な北朝鮮のやり方については、一つの国際問題です。だが、新聞はほとんどとりあげようとはしてくれません。この機会に報告をさせて頂き、少しでもみなさま方の口からひろく知人に伝えてもらい、国民の世論を喚起して頂きたいとお願ひする次第です。日本人女性の問題は、今後どうしても解決しなくてはならないものだと思います。

■僧侶として 政治にかかわる時

最後に、宗教と政治ということについてお話をさせて頂きます。私たちは議会人である前に宗教家でありますので、そのことが立法・行政にかかわる中で反映されなくては意味がないように思うわけです。そう考えます時、私たちが特にかかわらなくてはならないのは、家庭・社会教育の問題ではないでしょうか。

家庭教育については、それぞれの家庭の役割が大切なのですが、政治の面からも先祖や両親を大切に、敬愛の心をはぐくむといった仏教的理念にも通じた教育が成されるよう側面から援助していくべきだと思います。

岐阜県の場合、「緑の連帯社会」というスローガンをかけ社会運動をやっています。ご承知のように岐阜県は山の多い県です。また、将来的にも観光の県として発展していくためには、親切心を県民の中にちかつかけていかななくてはなりません。そこでこの運動のスタートとなったのですが、まず最初に我々の住んでいる地域をきれいにすることから着手して、暖か味のある県民性の育成をめざしております。

家庭教育の中においても、この運動を徹底することにおいて「よりよい社会づくりをめざすだけでなく人間の幸せにも通じるものです」と、私も各種の会合などで力説しております。また、こういう運動にかかわるにつけても、僧侶だと一般の人たちが気づかない発想が生れてくるものであることを感じます。社会の人たちも「僧侶だからあのようなユニークな発想が生れるに違いない。宗教家の視点には教えられるものがある」と評価してくれます。僧侶であり政治家である私たちは、このような信頼関係を増大していくことも大きな責務だと思います。

反面、宗教と政治は一見、さして関係がないように見えますが、私なりに考えますと、決してそうではありません。積極的な社会活動をしようにすれば政治をぬきにはできません。政治が国や地方自治体の体制を作ってい

るわけですから、宗教家でその要職にある方がそれぞれの立場で発想・提案していけば、かなりのことが可能になるものと確信しています。

以上、私の日頃感じておりますことをお話しさせて頂きました。ご清聴ありがとうございます。

質疑応答

〔問い〕 私の寺では保育所を運営しておりますが、保育所と幼稚園の一元化問題の見通しについて伺いさせてもらいます。本願寺派保育連盟の役員などもやっていますので多少のことはわかっているつもりですが、最終的には政治の場で決着がつけられるものと思いますので、その見通しについて教えて頂きたい存じます。

〔杉山議員〕 幼保一元化の将来的展望ですが、私も第一線で見聞しておりますと、森文部大臣は一元化に積極的な姿勢をもっておられるようです。ところが厚生大臣の話をうかがいますと消極的です。それと乳幼児と幼児など、現在の色々な条件を比較検討しますと、簡単に一元化が成るということはむづかしいように思います。理論的には同じ年齢期を対象にした施設だから一元化すべきだということなのですが、管轄も文部省と厚生省と

違っています。あえて一元化を進めるということであれば、幼児局とか乳児局といった一つの部署を設置して一つの態勢を整えていくことにならざるをえないでしょう。私の受けとめ方は、理論的に一元化は可能であっても、現実的にはまだまだ遠いものがあるという感じがします。だから短兵急に一元化に向かって進むということはありえないでしょう。しかし、状況の変化があれば本派保育連盟の方にも報告して、対応を考えていくつもりです。

〔問い〕 宗門が打ち出しております靖国神社法案に対する反対運動は、よく理解しているつもりですが、私の寺にも二十人くらいの戦没者の遺族がおり、護国神社や靖国神社は無条件に尊敬しています。これに対して宗門の方針にしたがって「こうなんですよ」となかなか言いにくいところがあります。国会議員の立場でひとつご意見がありましたらお聞かせ下さい。

〔杉山議員〕 ただいまのご質問について、私の答弁がじゃっかん宗派の一部の方たちとズレがあるかもしれませんが、こういう席で発言することの善悪はともかくとして、私なりの考えを述べさせていただきます。現在、宗門内で呼びかけられている「靖国神社公式参拝反対」「国家護持反対」といった運動の方法はあまり感心致しません。なぜなら、私

達は運動の目的を達成する必要があるからです。すなわち、国のため、犠牲になった方々のために、いずれの宗教もご遺族の希望にそって、供養なり追悼が出来る場所であってほしいと念じています。ついては、憲法違反になってはならない、宗教の自由を尊重しなければならぬ、という二つの問題があります。ところが遺族会を敵にまわした運動になっているところの問題点があるように思っています。私達は遺族会の味方であって遺族の方々の心情をくみ、遺族会と手を携えて運動を行うといった態勢にしなければ成功しないと私は率直に申し上げたいのです。

それでは具体的にどうするか。今、東京で見えておりますと、遺族会と神主さんが手をにぎっているように思います。ご承知の通り靖国神社の神主さんと遺族会が「坊さんはいかん、本願寺はいかん」といって対抗しているわけです。今までの運動に対し発想の転換をする必要があります。それにはやはり靖国神社の体質を変えることが大切だと思います。例えば、宗教法人を国家護持しようとするれば憲法違反になりますので、公益法人にあらためたらどうか。そして、遺族の方々が、それぞれの宗教で儀式、参拝できるようにすべきだと思います。このため、靖国神社を公益法人化すべきだという運動を起こすことが先決だと思います。

会員体験発表

「天下一品」

楯 大亮

北海道・南富良野町長

△はじめに△ 北海道のヘソ・富良野市の近郊にある道内一空氣のよい町で「無所属系の無所属」をかかげ「和の町」「福祉の町」「づくりをめざす楯町長」「道内でもとりわけ人情が厚く誇るべき産物が多い」と自慢も。

▼「ヘソの下に 水たたえた町」

短い時間ですが、精いっぱい我が町の状況をお話させて頂きます。わが町は、北海道のヘソといわれる富良野市の近くです。だから南富良野町はいわばヘソの下といったところ

は下金山、金山など六つの集落があるのですが、そのそれぞれに「天皇」がおります。その上に町長がいるのなりののですが、どうもその「天皇」に使われているのが町長といった感じです。

議会は、各集落の代表の「集会」か「決戦場」といったところです。このようなこともあって町役場のある駅に南富良野という名前がついていないので駅名の変更をしたいのですが、各議員は自分の属する集落名でないと納得しません。議会で何回審議しても結局はダメになってしまいます。また、金山ダムの建設によって二百六十九戸が水没、農地も五百町歩を失い、私が町長に就任した頃は学校給食も、満足な消防設備、保育所もない町でした。

前の町長はダムにあげダムにくれ、結局成しとげられたのですが、民生面その他で立ち遅れが目立っていました。私は町長になるまでは民生課長を勤めていました。町長の改選が近くなった頃、私も課長職の者が集まると「次の町長選にはだれが出てくるのだろうか。火中の栗を拾うようなものだからな」と語り合ったものでした。

ところが年が明けた昭和四十七年の一月、町内の革新団体の役員たちが私の寺にやってきて「町長に立候補してくれないか」と頼みます。私はとっさに「じょう談じゃない。勤

まるわけがないでしょう」と言ったことでした。さらに続けて「町中が町長選挙に向けて大さわぎをしているのに、おとなしい私が出ておさまりがつくわけがない」と言ったのですが、いろいろなことを一言つけ加えました。「町民がみんなで押してくれるのなら立候補してもよい」と。私としては、町民がみんな押してくれるのならやってもよいが、そんなことはありえないという思いがあったからです。

▼住職落とすな／と 門徒が応援

その日はそれで終わったのですが、一カ月後に再びやってきて「町民全部がおすことになったから出てくれ」と言います。というのは、勤労者は革新団体がまとめたし、あとは商工会、農民連盟が推薦すると確約したので「町民全部がおすということになった」とのことでした。これを聞いて、もう断わるわけにはいかなくなり「わかった。一年か二年くらいしかもたんだろうが、ともかくやってみよう」と決意を固めました。

だが、立候補の段階になって、商工会と農民連盟が推薦しないと言い出し、革新団体の方も「社会党の推薦を受け入れよ」と言います。「いやない」と言うのと「ならば支持を受けよ」と迫りましたが、それではねつけまし

た。

そして、結局、町長選には、六十歳の助役、五十八歳の総務課長、そして四十七歳だった民生課長の私が立候補しました。こうなると三分の一の当選の可能性があるとはいえ、当選しても仕事ができないのなら、町長になってもしかたがありません。仕事をやるためには一党一派にかたよるべきではないと考えたのです。わずか六千の人口の町ですから「共産党はいや」「公明党は切りすて」というわけにはいきません。だからホンモノの無所属です。

こうして我をつらぬいたまま選挙戦に入っただけですが、革新陣営から「民主主義者ではない」といった批判を受けますので、そうした陣営の人たちを前に「私は親鸞教徒です」と演説したこともあります。いろいろなことがありましたが、ともかく当選させてもらいました。そりや当選するはずですよ。なにしろ私の寺は門徒戸数が少ないのですから、住職に役場勤めをやめてもらってはこまるのです。だから門徒の人たちが一丸となって選挙の応援に奔走してくれました。うれしかったですね。

選挙の結果は、私が二千票近く、あとは七百、六百票でしたが、相手陣営ばかりでなく私の陣営の人までが「新町長は体も弱いし、町政もむづかしい時だから何カ月も持たないだろう」と話しておりました。だから相手陣

営は看板などにビニールをかけて、いつでも選挙ができるように準備していたそうです。

▼反対派の三役選び

一期目スタート

私自身、町長に就任して以来、八きようで三日もった。お祝いだ、八きようで二十日、とそれたびに晩しやくをやるようになって、きようまで欠かさず続けています。こんな調子で私の町長としての日々がスタートしたのですが、選挙の公約に「小さいながらも楽しいわが家」「町民の和を中心とした町づくり」といったことを掲げていました。初議会では議長がわざわざ自分の席に戻って質問に立ち「町長のいう和とはどんなものなのか。英語では、ドイツ語では」と聞いてくるのです。私としても何と答えていいのかわかりませんでした。が、「仏教に一如という言葉があります。人の痛みを我が痛みとして、人の喜びを我が喜びとしていくことです。町民がお互いに敵とか味方だといっていたのでは町の発展はありえない」と、わけのわからない答弁をしました。するとその議長は「オレが議員になったのは、坊さんの説教を聞くためじゃないッ」とぶ然とした表情で言ったものです。

そのやりとりを議場の傍聴席で聞いていた北海道新聞の記者が、あとで「議長の質問は何のことかさっぱりわからない。でも町長の

答弁はよくわかった」と言ってくれましたね

それ以来、なにかと応援してくれるようになりました。さて、六月の議会に助役、収入役、教育長を任命し、賛同を求め了承されたのですが、いずれも前の助役らと親しい関係にある人ばかりです。このため私を支持する人たちが、涙を出さんばかりに「どうしてあんな人を助役にするのか。前の町長のように足を引っぱられます」と訴えます。これに対して「私が任命したのだから、たとえ足を引っぱられてもあきらめがつくから、私の思うようにやらせてほしい」と頼んだことでした。おかげさまで、その三人とも一生懸命にやってくれました。助役などは私よりずっと政治力のある男ですが、町長選に立候補する気配もなく私の町長が三期も続いているのです。それから議長もどこでひっくり返ったのかわかりませんが、今では強力な私の支援者です。その議長が議員の一行を引きつれまして西本願寺に参拝に來ましてね。情報部のみなさんから丁重なもてなしを受けて大感激してくれました。それ以来というものの禅宗の檀家なのですが、親鸞聖人に関する本を熱心に読むようになり、近頃では私にも「読みなさい」と言います。

▼寒冷地でも

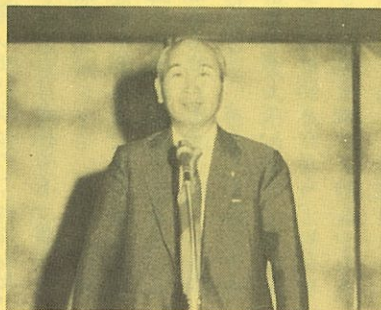
「福祉の町」実現

こうしたことで、なんとか町長職を勤めさ

せて頂いているのですが、精いっぱい仕事をやらせてもらっています。念願だった消防の設備、保育所、スキー場など次々と整備、設置してきました。とくに私の公約でもありました「福祉の町づくり」に力を入れて、まず最初に総合福祉センターとその横に農園をつくりました。また、道庁に行ったおり副知事に「特別養護老人ホームを作りたい」と相談したら「あなたの町は道内でも寒いところなので、道南の方がふさわしい」と言います。この発言には、カチンときましてね。「あなたは何を考えているのですか。寒さはどうにでもしのぐ方法がありますよ。今、大切なのは自然の暖かさではない。心の暖かさです。これについてはわが町において他にありません」と言ったことでした。

こんないきさ

つもあって、おかげで特別養護老人ホームをつくらせてもらいました。さらに、これは町営ではないのですが、「大乘会」という法人形式で精薄児の施設も建



設しました。

次に私が町長になってみて、最もよかったと思うことは、門徒のみんながよく寺に参ってくれるようになったことです。だいたい北海道のご門徒はあまり寺に参りません。ところが私が先にも申しましたように、町長選に立候補した時、「住職を落としたり寄付が増える。少ない門徒で住職一家の生活をみなくてはならない」ということもあって、門徒一丸となって応援してくれました。それ以来、「選挙だけというのもおかしいな。お寺の行事にも参加しないと」と夫婦そろって熱心に参ってくれるようになったところがたくさんあります。

毎回の選挙のたびに報道関係の方から聞かれて困ることが、私の政治的立場です。「あなたは保守系、革新系のどちらなのか」といった質問です。これに対して「もち論私は無所属です」と答えますと「それはわかるけども、どっちですか」と迫られます。私もやむをえませんから「無所属系の無所属です」と答えました。すると記者の方は腹を立てましてね、「そんなことはないッ、どっちかに片寄るはずだ」「いや、どっちにも片寄らない」とやりあったものです。この頃では、そのような質問もなくなりました。

こんな調子で一期目の選挙は大変に厳しかったわけですが、二・三期目は無競争で、四

期目は革新・保守のいずれも「しようがないから町長を推薦するよ」と言ってくれました。これを聞いたある人が「町長は幸せな人間だ。やはり仏さまがついている」とうらやましかったものです。

▼少々、自慢たらしくなりませんが…

最後に、テーマの「天下第一品」についてお話ししてもらいます。一品の第一は都会では考えられないほど住民が純朴（ぼく）なことです。一例をあげると、選挙のおり、私に投票しなかった老人たちが会合のおり町長室に尋ねてきて涙を流しながら「申しわけなかった。色々事情があって…。今度は入れます」と言います。もち論、私に入れた入れないかわかるわけでもないのですがね。でも、私はこのような住民の純朴さはおらが町の自慢になるものだと思います。老人たちだけでなく、子どもたちも純真そのもの。私の町にある高校の卒業式では、みんなが泣くんですよ。卒業式には私も出席して祝辞を述べるのですが、私のわけのわからない話も実に熱心に聞いてくれます。

さらに私の町は空気がとてもよい。数年前、北大の先生が道内の各地を調査したのですが、その中で私の町の空気が北海道でもっともた

くさんのイオンを含んでいるとのことでした。北海道で一番ということは全国でも一番だと自負しておる次第です。

次に農産物ですが南部じやがいの有数の産地で、本州へも種イモを移出しています。このイモは価格の点でも高いものです。こんなぐあいで、全道に誇るべきものがたくさんあるのがわが町だと自負しています。私としては都市化をできるだけ防ぎながら、いなかくささを守っていく町政を続けていくつもり

「過疎への試み」

野上 義 浄

福岡県・小石原村長

△はじめに▽ 過疎に悩む人口千四百人の村の村長に「ひよっこり」になった野上氏。教師時代の教え子の議員、役場の職員たちと一緒に新しい村づくりに取り組む「ひよっこり村長」の奮戦記。言いたいことが言えるので「議員になるのが夢」とか。

です。

財政面でも、余剰金を十五億円余り持っていますし、町有林も一千七百町歩もっています。私が町長になった当時は百町歩もなかったのですが、それ以後、山を買いました。財政のやりくりのために一本も切っておりません。このためこれからはこの町有林を大切に運営したら財政的にも困ることはなく、まさに「天下一品」の町だと思っています。

(北海道教区上川南組玄正寺住職)

▼先生に やつてもらおうツ

私は「ひよっこり村長」です。まさにひよっこり村長になりました。と申しますのは、私の村には大きくわけて二つの地域があります。その一つから五期ほど村長が出ていたのですが、私の寺のある地区からは出たことがありませんでした。そこで「今度こそうちから出そう」ということになり、地区の人たちが何度も本堂で集会を開いていました。

村長選挙に出たい人はたくさんいるのですが、候補者が決まりかけると「あれが出るのならワシも」と足を引っぱり合い、さっぱり決まりません。そんなとき、保育園の落成式がありまして、そこでも村長選挙の話が出ました。私も少々飲んでいましたので「こんな

に話がかないのなら、亡くなった人ばかりの葬式をしてきた私が、今度は生きている人の葬式をやつてやる」と言ったのです。すると、私が教師をしていたときの教え子たちが「先生にやつてもらおうツ」と言って、かつぎ出されたのです。

選挙まで十二、三日しかありませんでしたが、地域の人たちも「なにかも私らがやりますので」ということで、私も決意を固め立候補に踏み切りました。私の村の人口は千四百人、有権者数は約千。選挙の結果は私が五百票余り、相手候補が四百票余りで、その差は百五十票余りでした。当選をしたもののそれからが大変です。最初は八楽しくおらが村の将来を考えよう△と想像していたのですが、村長職の忙しいこと。もう私の時間はありません。△これはえらい計算がいった△と後悔しましたが、今や遅しです。

ところで、村の年間予算は八億円余り。村会の議員数は八人。私は昭和二十二年から三十五年間、村の中学、小学校で教師をつとめました。だから議員さんの半分は教え子です。また、八人全員が無所属。その上、役場の課長全員も中学での教え子でございます。こうした面では大変にやりやすいのですが、課長のもってくる文書がウソ字とあて字ばかり。なさけなくもなりますが、なにしろ私が教えた者ばかりですから文句は言えません。それ

でも「これはちがうばい」と指導します。この頃ではちゃんと辞書を引いてくるようになりました。こんな調子でスタートしましたが、村長とはいっても私自身にあまり意欲がないものですから、村にとっては不都合な点がたくさんあろうと思います。

▼小さな村だから 借金すべし

それでも村長に就任した当時、預金が四千万円余りあったのを、なんと二億円にしました。そして懸案だった中学校の統合をやりましたので、一億円を使い、預金は再び減っています。それに借金率は村長就任の当時で十二%でしたが、現在では十四・八%。十五%になると「黄信号」のこと。このように、まったくのシロウト村長なのです。

県庁の地方課に行つて色々と相談しますと課長さんが「小さな村だからこそ借金すべきです。心配することはありません」と言ってくれます。この課長、東大出のエリートですが、よくしてくれまして、毎年、二億円くらい地債をもらいます。ご存知の通り一億円を借りても三・四千万円を返済すればよいのですから、これまで三年間に六億円余り借りました。あと一年で任期ですが、林道を六本、小学校の統合、中学校はこの会合から帰つてすぐに入札の予定で、やるべきことはほぼや

り終えました。

これからやらなくてはならないのは、過疎問題とどう取り組むかということです。これはみんな考えてはなりません。お隣の大分県では平松知事の呼びかけで「一市町村一品運動」が実施され、大きな成果を上げています。私も何回か視察に行きましたが、大分県の大山町では農家一戸の年収を平均六百万円にしようとかんがっています。私の村はまだ三百万円がせいぜいで、それも二十年かかりました。

村では特産品の生産と販売に力を入れていきます。その一つが伝統工芸品の指定を受けている小石原焼で、この育成と宣伝に力を入れていくつもりです。現在のところ年間二十万人の観光客が来てくれます。やはり過疎問題に対しては「若い者がおらんようになった」となげく前に、

村に残っている者が腰を落ちつけて。「村を若返らせよう」とがんばっています。これは私が二期目の村長にならなくても、必ず引きつがれていく、また引



きつがれなくてはならないものと思います。

ところで、今度なるのなら議員さんになりたい。「村長はいかんツ」と、言うだけでいいんですから。だから私は議員に通知簿をつけています。村のためにどれだけ発言したかを調べているのですが、そのことを議員に言いましたら「そんなことやめちよくれ」と苦笑していました。ともかく次に政治をこころざすときは、議員になりたいですね。

▼ミニコミ紙で うつつん晴し

ところで村長室には、真宗教団連合の法語カレンダーをかけています。その五月の法語は才市同行の「他力とは、身にきたことを他力という」とあります。部屋を尋ねてくる人が「この言葉は、どういう意味ですか」と聞きます。「うん、私もよくわかりません。あなたが暇な時に私の寺に来るようになりますわかりますよ」とごまかしています。本当のところ私にもよくわからないのですが、これらのお言葉を味わわせてもらうにつけても、私自身が家族と一緒にまず手を合わせていくことが政治の原点だろうと思います。宗教と政治というようなものなど、とうてい今の私にはおよばないところでございます。

さて、私は村民の方たちに思いを伝えるため『村長室』というミニコミ紙を書いていま

す。シロウト村長ということで、かわいそう
だと思ふのかマスコミがとても友好的でして
『村長室』についてもいろいろと記事に取り
上げてくれます。ただ『村長室』という名前
は、「固すぎる。名前を変えたら」と言つて
くれます。なにしろ月二回、ちよろちよろつ
と手書きで書いて三百五十の全戸に配布して
いますので、よくばつて小さい字でいっぱい
書くことになり、このためお年寄りから「も
うちよつと大きな字で書いとくれ」と、しよ
つちゆう言われています。

この『村長室』はもう三年続いています、
これなどは私のせめてものうっぷんのはけ口
といったところです。あとはなにもかもシロ
ウトでございます。恥ずかしいかぎりの「ひ
よっこり村長」ですが、ともかく全力を尽く
して村民のためご奉仕させてもらっているわ
けです。

(福岡教区上下組浄満寺前住職)